

# こころだより

特集

## 意外と知られて いない統合失調症

～病院理念～

県民の心の健康を支える  
質の高い医療の提供



7月末に和歌山で行われたDPATの訓練に参加しました。



7月27日に恒例の夏祭りを開催。今年も大盛況。

\* これからの精神科医療に向けて

\* こころNEWS

\* 高次脳機能障害リハビリテーション講習会のお知らせ

\* 診療のご案内



編集：広報委員会  
発行：山口県立こころの医療センター  
山口県宇部市東岐波4004-2  
TEL：0836-58-2370（代表）

特集!

# 意外と知られていない統合失調症

精神科医 みやの やすひろ  
宮野 康寛



私たち精神科医や精神科病院にとってはごくごくありふれた病気として統合失調症がありますが、世間にはあまり知られていないようです。アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症はTVのCMでも取りあげられ、名前くらいは聞いたことがあるかもしれません。TVの威力はすごいと思うと同時に、統合失調症も同じように多くの人にとってありふれた病気となればよいなと思います。

余談ですが、認知症は病気であっても治療して回復するわけではありません。医師や病院ができることは意外に少ないと実感するとともに、介護や福祉の方々の力に助けられることが本当に多いです。投薬と通院だけではなかなか安定しなかった患者さんが、介護保険を申請し、福祉サービスにつながった途端に落ち着きを取り戻すことをよく経験します。

一方で統合失調症は治療して回復する方が多いです。1952年のクロルプロマジンの発見以降、様々な紆余曲折を経て21世紀に至り、精神科薬物治療はますます成熟してきています。その結果、急性期の激しい症状を抑えることで精一杯だった治療も、リハビリ、統合失調症の患者さんが病気の治療を経てその人らしい人生を歩めるようになることが目標となってきています。患者さんや家族の方々に、「私の患者さんには同じ病気でも薬を飲みながら普通に働いている人がたくさんいますよ」と言うと驚かれます。こんなことを言っても誰も驚かなくなる日が早くくればよいなと思います。

しかし、なぜ統合失調症、いわゆる精神病に対する認知が、認知症よりも進まないのでしょうか？認知症については「誰もが年を重ねればなってしまう」という恐怖感があるため、誰もが関心を持たざるを得ないのかもしれませんが、また、急性期の症状、幻覚や妄想、それに基づく発言や行動が、理解しようにもできないためなのかもしれません。

20世紀、ドイツの精神医学者、クラウス・コンラートはその著書「分裂病のはじまり」で、妄想気分を統合失調症（当時の精神分裂病）の主要な症状として捉えています。妄想気分とは「得体の知れない恐怖感に支配された気分」といったところでしょうか。自己の外に恐怖の具体的な対象があれば、闘って倒してしまうか、見えないところまで逃げてしまえばいいのです。しかし、自己の内から恐怖が湧き出てくる、しかも明確な対象のある恐怖ではなく、漠然とした、抽象的な恐怖に対抗するにはどうしたらいいのでしょうか？闘うことも逃げることもできません。「せめて恐怖の理由が具体化すればどうしたら良いのかわかるのかもしれない」そんな患者さん自身の切なる願いから紡ぎ出されたものが、いわゆる幻覚や妄想なのだと思います。了解不能な言動は、患者さんの苦痛そのもの、あるいは苦痛と闘っている表現なのです。

ドネペジルがアルツハイマー型認知症の治療薬として1997年に発売されて以降、認知症は広く知れ渡ることとなり、いまでは予防から地域でのケアについて多くの人に関心を寄せています。統合失調症をはじめとする精神科疾患についても、多くの患者さんが質の高い社会復帰を果たせるように、今後も微力を尽くします。

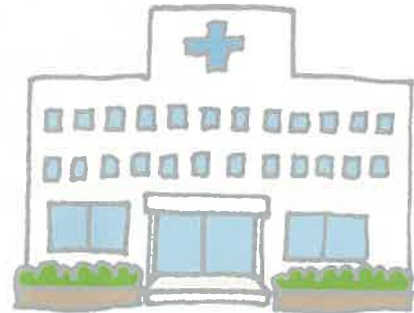


## これからの精神科医療に向けて

国が提示した平成30年度からの第7次医療計画では、精神科病院の専門領域別の機能強化と関係機関との連携が謳われています。現在での当院の機能を整理してみると国の示した15の専門領域の中で①統合失調症：治療抵抗性統合失調症の薬物治療、改良型電気けいれん治療の実施、②認知症：認知症疾患センターの運営、若年性認知症支援コーディネーターの配置、③児童思春期精神疾患：児童思春期外来、④精神科救急：精神科救急対応の2つの病棟、⑤依存症：専門外来と病棟、⑥高次脳機能障害：高次脳機能障害センターの運営、⑦災害医療：DPAT（災害派遣精神医療チーム）の派遣と訓練、⑧医療観察病棟の運営と既に8つの領域で専門的な医療が実施されており、関係機関との連携も定例会議や事例検討、アウトリーチ（地域や現場に向いての支援）活動を通じて実践されています。各領域での医療の質の向上のために、スタッフを学術大会や研修会へ派遣しています。もちろんそれぞれの領域での課題もあり、例えば⑦災害医療に関しては、当院が被災した場合や被災した他の精神科病院からの患者の受け入れ体制を検討していく必要があります。

8月の終わりに開催された全国の自治体病院の研修会のテーマが「地域移行と在宅医療」で、厚生労働省の精神障害の担当者の講演でも、精神疾患を持つ人たちを対象にした地域包括ケアシステムの構築が目指されているという内容がありました。このような医療施策の方向性のなかで、当院に求められていくのは、当たり前のことですが、公的精神科病院の責務としての専門性と質の高い医療の県民への提供です。初心—当院の存在意義—に常に立ち返りながら、兼院長を中心に職員一同、これからも県民のための精神科医療に専念していく所存です。

副院長 かく 加来 よういち 洋一



## こころNEWS

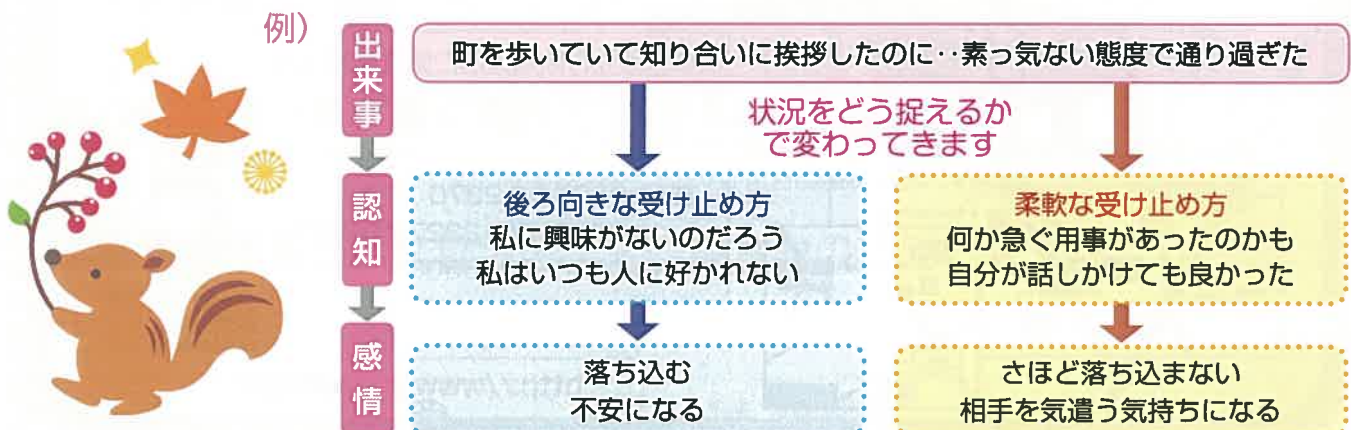
### うつ病を対象とした集団認知行動療法の準備をすすめています

近年、うつ病は社会に広く知られるようになりました。うつ病の治療法として、薬物療法や休息だけではなく、今、認知行動療法が注目されています。

認知行動療法とは、気分の落ち込み（気分・感情）の原因を出来事そのものの影響とは考えず、その出来事をどのように受けとめたか（認知）や、どう振る舞ったか（行動）が、私たちの気分や身体状態に影響すると考え、「認知」や「行動」に働きかけ、こころのストレスを軽くしていく治療法です。

「うつ病の集団認知行動療法」では、同じ悩みを抱える者同士が少人数のグループとなり、一緒に自分の症状や認知の仕方を把握し、検討していきます。そして、ものごとに対してより柔軟で適応的な受け止め方や行動について学んでいきます。

10月からの試行的開始に向けて準備をすすめています。



## 講習会のお知らせ

＜一般社団法人日本損害保険協会助成事業＞  
平成29年度山口県高次脳機能障害  
リハビリテーション講習会

こんな症状は、  
ありませんか？

覚えられない



集中できない



イライラして  
怒りっぽくなった



効率的にできない



参加費  
無料

# 交通事故や脳卒中で 脳が傷ついたら...

～もっと知りたい高次脳機能障害～

とき 平成29年11月11日(日)  
13:00～16:30(受付12:30から)  
ところ 山口県総合保健会館(多目的ホール)



講演：「夢を持って実現する方法を考える  
～高次脳機能障害者の理解～」

講師：長谷川 幹 氏

三軒茶屋リハビリテーションクリニック 院長

座談会：「夢を力にかえて」

参加者：当事者、支援者、支援コーディネーター

長谷川 幹 氏

三軒茶屋リハビリテーションクリニック 院長

お申し込み・お問い合わせ先

【メ切：11月2日(木)】

地方独立行政法人山口県立病院機構  
山口県立こころの医療センター  
高次脳機能障害支援センター

担当：下瀬・正司

TEL：0836-58-1218

山口県立こころの医療センターのホームページからも  
様式をダウンロードできます。

<http://www.y-kokoro.jp/>

## 診療のご案内

### 外来診療担当医

	初診	再診
月	(物忘れ、高次脳、一般) 兼行 浩史	(一般) 角田 武久
火	(児童・思春期、一般) 村田 由紀	兼行 浩史
水	(児童・思春期) 加来 洋一	(一般) 三好 俊彦
木	(アルコール依存、一般) 藤田 実	(一般) 新造 電也
金	(物忘れ、一般) 宮野 康寛	兼行 浩史

初診・再診とも予約制となっております。予めお電話でご予約されてご来院ください。  
外来直通電話：0836-58-2327

## 交通のご案内



お車 / 山口宇部道路「宇部東IC」より丸尾方面へ約5分  
電車 / JR宇部線「丸尾駅」より徒歩約15分  
バス / 宇部市営バス「東岐波中学校前」より徒歩約10分

地方独立行政法人山口県立病院機構  
山口県立こころの医療センター

〒755-0241 山口県宇部市東岐波 4004-2  
TEL：0836-58-2370 (代表)  
：0836-58-2327 (外来直通)  
FAX：0836-58-6503



こころの医療センター

検索

<http://www.y-kokoro.jp/>